



←完成当時の藤川児童館（広報なかかわね昭和40年11月15日号より）  
当時の人口は、旧本川根町は7,048人、旧中川根町は9,871人でした。  
（昭和40年国勢調査より）

### 地域の熱い要望を受け 藤川児童館の誕生

昭和40年、地域の幼児保育の熱い要望を受け、10月15日、藤川児童館は産声を上げました。当時の広報なかかわねを見ると、「高まる幼児の保育率」と題して「本来、保育園とは異なつた利用目的を持つ施設だが、へき地保育所を併設する方針。建物構造も他の保育園と大差なく、遊戯室、図書室、展示室などが設けられ、職員2人を配置して運営を開始した」と伝えています。

建設費は国・県補助を含めて約340万円でした。

### 藤川保育園正式認可 園として本格スタート

東名高速道路が全線開通し、台風7号が全国各地で猛威をふるつた昭和44年。それまで補助金などの関係で児童館として運営してきた藤川児童館は、正式に認可をとり、9月1日から定員60人、職員4人体制の「藤川保育園」として生まれ変わりました。

保育の希望も年々増大していた時期、地域の強い要望が受け

入れられたのです。

### 藤川保育園移転 そして少子化時代到来

建物の老朽化と保育環境の改善のため、平成6年3月23日、国・県の補助を受け、定員30人の保育園として、現在の場所に建物を移転・新築しました。

おとぎ話に出てくるような緑色の三角屋根と、広々とした室内空間が自慢の、子どもたちに親しまれる建物でした。

建設費は国・県補助を含めて約1億800万円でした。

そして近年、少子化の時代。園児数の減少には歯止めがかからず、藤川保育園の卒園児数もここ数年は毎年10人を下回る状況が続きました。（下グラフ）

町内他の保育園と同様に、園の存続について幾度も協議を重ねた結果、平成19年度をもって藤川保育園の休園が決定しました。保育園の移転・新築からおよそ13年の月日が流れていました。

### 藤川保育園休園式挙行

最後の卒園式に引き続いて挙

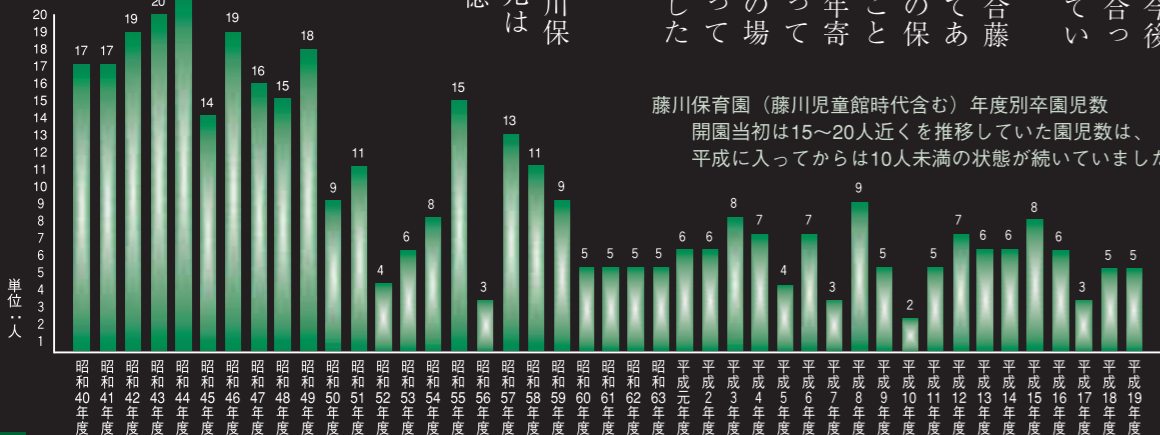
行された休園式には、全園児とその保護者、地区の役員の方々が出席しました。

冒頭、杉山町長が藤川保育園の卒園児数が延べ393人であったことを紹介し、今後も地域の皆さんと協力し合つて児童の健全育成を図っていきたくと話しました。

地元関係者として、落合藤川区長と山本議員が続いてあいさつし、ともに「地域の保育園がなくなってしまうことを非常に残念に思う。お年寄りとおふれ合う場所にもなっており、世代を超えた交流の場として、大切な役割を担ってくれた藤川保育園に感謝したい」と話しました。

今回の休園に伴い、藤川保育園の園児（今回卒園児はのぞく）は、4月から徳山聖母保育園（徳山）、三ツ星保育園（上長尾）に通い始めます。

藤川保育園（藤川児童館時代含む）年度別卒園児数  
開園当初は15~20人近くを推移していた園児数は、平成に入ってから10人未満の状態が続いていました。



昭和から平成  
2つの時代を駆けた40年余  
地域とともに  
子どもたちとともに  
藤川保育園は育まれてきた



右ページの写真：  
昭和40年当時の藤川児童館の様子